

# 病児保育だより

2024年度 No.2

医療法人はあと 病児保育はあとキッズ

〒452-0933 愛知県清須市西田中白山 5

TEL:052-898-7625

登録・ご予約は

あずかるこちゃんから



病児保育はあとキッズが開所し、早いもので半年が過ぎました。

ご登録される方、実際にご利用される方も増えてきており、子育て支援において病児保育が欠かせないものであることを実感しています。

まだまだ暑い日が続いていますが、徐々に朝晩と日中の気温差が感じられる季節に移り変わっていきます。

季節の変わり目は体調が崩れやすくなるタイミングです。

規則正しい生活やバランスの良い食事が摂れるように心がけていきましょう。

病児保育だよりでは、季節ごとの感染症情報や予防に関してお知らせしていきます。

ご家庭でも参考にいただければ幸いです。

## 7~9月の利用者数

9月現在、登録者数は155名、利用者数が172名になりました。

7~9月の3ヶ月間でご利用の多かった疾患についてお知らせします。

7月

総利用者数 39名

かぜ 11名 咽頭炎 5名  
気管支炎 2名 嘔吐症 1名  
中耳炎 1名 手足口病 20名  
ヘルパンギーナ 1名

8月

総利用者数 17名

かぜ 9名 咽頭炎 1名  
手足口病 7名

9月

総利用者数 22名

かぜ 6名 気管支炎 1名  
手足口病 13名  
インフルエンザ 1名  
腹痛 1名

## Q&A

Q1.病児保育を利用するにはどうしたらいいですか？

A1.あずかるこちゃんにて利用者情報の登録を行い、「病児保育はあとキッズ」へ登録申請をしてください。登録申請まで終えている状態になると予約が行えるようになります。利用を希望される日の「予約確定」通知が届きましたら病児保育のご利用が可能となります。利用の際は必ず「医師連絡票」が必要となりますので、かかりつけの病院で記入していただくか当院で診察を受けて医師連絡票を記入していただく必要があります。

Q3.診察にはどのくらい時間がかかりますか？

A3.当院で診察を受けられる方の人数によって多少の変動はありますが、以下の流れを参考にしてください。

### 【検査が必要な場合】

8:30~ 来院された方から順番に検査を行います  
結果が出るまで15分ほどお待ちいただきます  
8:45頃 診察  
陰性結果の方は入室いただき、診察を受けていただきます  
8:55頃 保育室にてお預かり  
お預かり可能と判断された方は診察が終わりしだい、荷物の確認、利用料等の精算後にお預かりを開始します

### 【検査が不要の場合】

8:40~ 来院された方から順番に診察  
8:50頃 保育室にてお預かり  
お預かり可能と判断された方は診察が終わりしだい、荷物の確認、利用料等の精算後にお預かりを開始します。

Q2.かかりつけの病院には受診したけれど

医師連絡票がないときはどうすればいいですか？

A2.病児保育を利用する場合は必ず医師連絡票が必要になります。

以下の方法にてご用意いただくようお願いいたします。

① かかりつけの病院で記入していただく

病院によっては手数料がかかります。受診先にてご確認ください。

医師連絡票は病院には置いてありません。受診先での記入をご希望の方はあずかるこちゃんからダウンロードして病院へお持ちください。

② 利用希望日に当院の診察を受け、医師連絡票を記入していただく

お問い合わせの多い

ご質問にお答えします！

## 秋に流行る感染症

### RSウイルス感染症

「RSウイルス」によって引き起こされる呼吸器の感染症。  
発熱や鼻水、咳といった風邪とよく似た症状が出ます。2歳までにほぼ全員がかかるとされており、1週間ほどで自然に治ることがほとんどです。生後6ヶ月未満の子どもが感染すると呼吸器症状が悪化しやすく、場合によっては入院治療が必要になることもあります。

### マイコプラズマ肺炎

「肺炎マイコプラズマ」という細菌によって引き起こされる呼吸器の感染症。  
発熱や頭痛、全身倦怠感が現れたあとに3~5日ほど立ってから咳が始めます。咳は時間が経つにつれてだんだんと強くなり、解熱してから3~4週間ほど続くことも。中耳炎や発疹を伴ったり、幼児は鼻水が出たりすることもあります。

### ノロウイルス感染症

「ノロウイルス」によって引き起こされる腸管の感染症。  
嘔吐と下痢が主な症状として出ます。感染力が強いため何度もかかることがあり、大人にも感染します。1~3日ほどで自然に治ることがほとんどですが、嘔吐と下痢を繰り返すことにより脱水症状を起こすこともあるので注意が必要です。

秋から冬にかけては気温が下がって空気が乾燥し、ウイルスが活発に活動するようになります。適切な室温、湿度を保ち、感染症予防に努めましょう。また、マイコプラズマ肺炎の患者数が急増しているというニュースを耳にする機会が増えてきました。患者数の多くは14歳以下の子どもとのことですが、大人にも伝染します。一般的な風邪との区別が難しいため、乾いた咳の症状が長く続く場合には注意が必要です。